

日本キリスト教団塚口教会

Church College III

いざな
キリスト教文学への誘い

ダイアログ
—近代日本文学とキリスト教の対話—

全3回講座 2019年2月9日～2019年11月9日

私たちが親しんできた近代以降の日本文学は、その多くが、キリスト教と深く関わり、様々な影響を受けてきました。そうした中から皆さんがよくご存じの作家と作品を取り上げて、それらが日本人の生き方や考え方にどのような影響を与えてきたかを共に学び、そのことを通して、より深く親しむことが出来ればと願っています。

第2回講座 2019年7月13日(土) 午後2時～4時

詩人は聖書をどのように表現したか

詩人・日本聖書神学校講師 柴崎 聰先生



プロフィール 1943年、仙台市生まれ。1967年、慶応義塾大学法学部法律学科卒業。2008年、日本大学大学院博士課程修了、博士(総合社会文化)。1967～2006年、編集者として活動。1963年に詩作活動を開始。現在、日本聖書神学校講師、日本現代詩人会、日本詩人クラブ、日本キリスト教詩人会、日本キリスト教文学会会員。
評論『詩の喜び 詩の悲しみ』『文学の比喩 聖書の比喩』『石原吉郎 詩文学の核心』、詩集『新・日本現代詩文庫10 柴崎聰詩集』『火の言葉』『香りの舟』など。

講演趣旨 1882年に『新體詩抄』が刊行されて以来、西洋の近代詩が日本に輸入され、それらが日本の詩人たちに与えた影響は絶大であった。なかでもキリスト教が、日本近代詩の担い手たちに与えた影響は、計り知れない。翻訳された聖書の影響は、絶大であった。島崎藤村、三木露風、山村暮鳥、八木重吉、石原吉郎、安西均、まど みちお、阪田寛夫たちが

が心血を注いで、聖書をどのように表現してきたのかを、具体的な詩作品を読み解いていくことによって学んでいきたい。

次回・第3回講座 2019年11月9日(土)午後2時～4時
関西学院大学名誉教授 細川正義先生
太宰 治文芸とキリスト教-『正義と微笑』を中心に-

どなたでも
お越し下さい。

入場
無料

日本キリスト教団 塚口教会

〒661-0012 尼崎市南塚口町2-34-3

Tel 06-6429-3019

阪急塚口駅南へ300m(徒歩約5分)

2つ目の信号を右(西)、(園田学園高校東側)

